

＜先週の説教から＞

『黙示録 51—驚くべき女性の登場』

詩編 1:1～6 ヨハネの黙示録 17:1～8

ヨハネの黙示録を読み進めて来ました。いよいよ17章に入ります。ここから黙示録を読み解く正念場と言ってよいと思います。それはここからあまりにも荒唐無稽な、おとぎ話のような物語が始まっているからです。

いきなり1節から「さて、七つの鉢を持つ七人の天使の一人が来て、私に語りかけた。『ここへ来なさい。多くの水の上に座している大淫婦に対する裁きを見せよう。』」と始まっています。「淫婦」とは、ギリシア語では（ポルネー）という言葉でもともと（ペラオー＝売る）という言葉から来ています。つまり（体を売る女）という意味で（売春婦や娼婦）のことを指します。それに（メガレース＝巨大である）という言葉が付いています。これが何のことを言っているのか、ここだけ読むと全く見当が尽きません。

実は、この箇所と並行している箇所が後に出て来ます。それが21章9節で「さて、最後の七つの災いに満ちた七つの鉢を持つ七人の天使がいたが、その中の一人が来て、わたしに語りかけてこう言った。『ここに来なさい。小羊の妻である花嫁を見せてあげよう。』」です。17章の1節と比べて見ると、ほとんど同じ表現が為されていることが分かると思います。『ここへ来なさい』と言われたヨハネが目にしたものは、両方とも（女性）であったということです。ただし、一方は乱れた悪しき「大淫婦」であり、もう一方は素敵な「小羊（＝キリスト）の花嫁」なのです。見事に対照的に置かれていることがお分かりでしょう。

そして、21章ではこの「花嫁」こそが（天にある）「聖なる都エルサレム」であると続けて語られています。そうであるならば、17章の「大淫婦」もどこかの都のことを指しているということが想定できるのです。実際、この後5節で「大バビロン、みだらな女たちや、池上の忌まわしい者たちの母」であると言われていました。かつて、都エルサレムを陥落させ、イスラエル王国を滅亡させたバビロニア王国の首都バビロンのことを指しているのだと。

ただ、ここで問題が生じます。なぜなら、既にバビロニア王国はペルシャによって滅ぼされ、都バビロンも破壊され、黙示録が書かれた時代には見る影もない町になってしまっていたのです。そのバビロンを「大バビロン」などと呼び、それがいつか滅びるといふ預言をしても、もはや意味を為さないとはいえる状態であったのです。それなのにどうしてバビロンをそんなに重視するのか？

この点について、ほとんどの解説者は、バビロンという名前を借りているだけで、本当はローマ帝国の首都ローマのことなのだと思定しています。今、ヨハネはローマ帝国からの迫害にあつてパトモス島にある監獄＝牢獄に入れられているのです。当然、ローマ帝国の兵士の監視を受け、手紙や文書も検閲を受けたはず（かつて戦時下の日本の特高警察のように）。露骨にローマのことについて書く事や、しかもそのローマが必ず滅びるというような言葉をストレートに記すことは到底、出来なかつたでしょう。むしろ、書いた手紙や文書を何とかして届けたいと願つたはずですから。従つて、ローマと書かず、かつてローマ帝国と同じように繁栄を誇つたバビロニア帝国の首都バビロンの名を借りたのだらうと。それで読者はよく分かつたのです。だから単なるバビロンではなく「大バビロン」としているのだと言ひ得ます。

この「大淫婦」をローマと読み替えて行くとこの後の説明がよく理解できます。「多くの水の上に座る」はまさにローマは川や運河によって水の豊かな街であり、「全身まるところ神を冒瀆する数々の名で覆われており」は街中に偶像礼拝の神殿がたくさん建つていたことを指します。

「七つの頭と十本の角があつた」も多くの国々を支配下に置き、たくさんの王様を輩出している繁栄を指します。

「紫と赤の衣を着て、金と宝石と真珠で身を飾り」はまさにその富と権力の豊かさを示しています。そして「地上の王たちはこの女のみだらな行いのぶどう酒に酔つてしまつた」と。ローマの悪しき影響が帝国の隅々まで行き渡り、偶像礼拝と不品行が国内にまん延してしまつたのでした。

それは、この大淫婦を見たヨハネさえも迷わせるほどでした。それが「この女を見て、わたしは大いに驚いた」です。この「驚く＝サウマゾー」には（感嘆する）という意味もあるのです。だからそのすぐ後に「すると、天使がわたしにこう言った。『なぜ驚くのか』』と叱られているのです。そして、天使は「この女の秘められた意味を知らせよう」と申し出ています。それは逆に言えば、外見だけを見るとすごいと思つてしまつたり、影響を与えられてしまうけれども、その存在の本質を見抜けば、驚いたり、魅了されることはなくなるのだという教へでもありなのです。

巨大で怖い存在に影響を受けやすい私たちですが、その本当の姿や本質が分かれば、恐れる必要はなくなると。

未来のことについても、分からないから不安になり、恐れます。しかし、主のみ元へと必ず招かれると分かつていれば、そんなに驚くことはないのだと言ひ得ます！

No. 62 - 13

週報

2020年度 教会標語

「生活の真ん中に礼拝する心を！」

2021年 3月 28日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>